

鈴木龍 スプリント制す

自転車 JPT第15戦

自転車ロードレースのJプロツアー(JPT)第15戦「第2回やいた片岡ロードレース」は22日、矢板市石岡の特設コース(10.7キロ×8周=85.6キロ)で行われ、宇都宮プリッツェンの鈴木龍がゴールスプリントを制して2時間1分30秒で優勝した。プリッツェン勢はJPT3連勝で、今季通算8勝目、那須プラーゼンは西尾勇人が首位と同タイムの4位で表彰台を惜しくも逃した。

プリッツェン勢は前半に少数の逃げを容認し、メイン集団をコントロールし続けた。5周目に単独で抜け出した岡藤志は最終周に吸収されたが、最終的に7人に絞られた先頭集団に鈴木龍と鈴木謙を送り込むことに成功。最後は鈴木謙のアシストを受けた鈴木龍がゴールスプリントを制した。JPT第16戦は9月1日に再開。栃木市の渡良瀬遊水地で初開催のチームタイムトライアルチャリジョンシップを行う。

チームは今季初の3連勝



①鈴木龍(宇都宮プリッツェン) ②アキラ・ワケル(那須プラーゼン) ③マツダ・ハワタシ(宇都宮プリッツェン) ④西尾勇人(那須プラーゼン) ⑤以上2時間1分30秒の鈴木謙(宇都宮プリッツェン) ⑥雨沢毅(同) ⑦2時間1分30秒の雨沢毅(同) ⑧2時間1分30秒の雨沢毅(同) ⑨2時間1分30秒の雨沢毅(同) ⑩2時間1分30秒の雨沢毅(同)

プリッツェン旋風が止まらない。灼熱の夏をさらに熱くするゴールスプリント対決を制したのは、宇都宮プリッツェンの鈴木龍。自身2勝目でチームに今季初の3連勝をもたらした。「優勝した第13戦の、石川ロードの勢いのまま、地元レースで勝ててよかった。トップ

ハイライト

作戦。ピタリ、完全復活

プランは「あった。回前方をしつかり固め、雨沢毅が岡藤志の逃げ切り、または鈴木龍のゴールスプリント。レースを引き離し、集団をけん引する」とあった。回前方をしつかり固め、雨沢毅が岡藤志の逃げ切り、または鈴木龍のゴールスプリント。レースを引き離し、集団をけん引する。最終局面に臨んだ鈴木龍は、を挙げその力は圧倒的。

前半は主導権を握るべく、故陣から復帰した増田ライバルたその力を消す。田成幸主将を中心に、消耗させることに成功。各あり、自分のスプリントで勝負を挑んだ。各あり、自分のスプリントで勝負を挑んだ。各あり、自分のスプリントで勝負を挑んだ。

苦い記憶を呼ぶ4位。那須プラーゼンが4位。西尾勇人がゴールスプリントに挑んだが悔しい4位。昨年も岸原仁が4位。やいた片岡ロードレースを制した宇都宮プリッツェンの鈴木龍。矢板市石岡。二谷千春撮影。

最終周に絞られた先頭集団に下島将輝主将、岸原仁が残ったのが運の尽き。アシストに回るはずだった西尾は左膝に痛みを抱えており「スプリントではないので分が悪かった」と単騎での勝負には限界があった。ツアーは1カ月の休戦期間に入る。西尾は選手たちがレース終了後、支援金の協力を呼び掛けた。広島県内は土砂被害が多く、プリッツェンの元選手でウィクトワール運営会社の中山卓士代表は「広島が戦場のようになっていました。他の地域と本県との地元のチームやファンの皆さまの支援力を呼びかけたい」と訴えた。



チーム最高の4位となった那須プラーゼンの西尾



レース終了後、西日本豪雨災害への募金活動を行う宇都宮プリッツェン、那須プラーゼンの選手たち